

目次



活気あふれる都市、ボルドー P.2



2018年のハイライト P.3



歴史的文化遺産と近代遺産を合わせもつ ボルドー P.4



ボルドーのワイン街道 P.6



ボルドーの象徴・シテ・デュ・ヴァン CITE DU VIN P.7



世界と繋がる港・ボルドー

P.5

ボルドーの文化トピックス P.8



もう一つのボルドー P.9



ボルドー・ナイトライフ P.10



ボルドー・珍しいアクティビティ P.11



みずみずしく生き生きとした創造的な 大都市のウェブ雑誌! P.12



地球環境に優しい街ボルドー P.13



ボルドーで美食を P.14



宿泊施設 P.15



ビジネスツーリズムの デスティネーションとしてのボルドー P.16



ビジネスツーリズム:将来を視野に いれるボルドー・メトロポール P.17



建築・デザイン・都市計画 P.18



ボルドーでゴルフを P.19



ボルドー、フランス南西部への玄関 P.20



2018年のイベント・カレンダー P.21



数字 & 順位でみるボルドー P.23



プレス・コンタクト P.24



活気あふれる都市、ボルドー

世界一広大なワイン畑という素晴らしい財産を受け継ぎ、守り続けるボルドー。そこはフランス流の粋な暮らしの象徴であると同時に、新旧さまざまな文化が行き交い、人々を常に魅了する場所でもあります。

ヌーヴェル=アキテーヌ地域圏の首都

フランス最大の地域圏ヌーヴェル=アキテーヌの中心都市であるボルドーは、新型TGVでパリからわずか2時間4分。各都市からの空路直行便も多数発着しています。アルカション特産の牡蠣、ペサック・レオニャンのワイン畑、大西洋に面した手付かずの大自然。毎年たくさんの人が訪れるこの広々とした大地はまさに"フランスのカリフォルニア"と呼ぶにふさわしいでしょう。

食べる・生きる

ボルドーの街は、「ゆっくりなさい」「シンプルな喜びを味わなさい」と呼びかけてきます。穏やかな気候、心を奪う建築、そこここの小道や広場、新たな味覚を創造する若いシェフ。河岸や公園では心豊かな時間がゆったりと流れます。

ボルドーといえばワイン、ワインといえばボルドー。

今年もまた、ボルドーでは二年に一度の恒例のワイン祭りを祝います。それに惹かれてやってくる世界中のたくさんの人たちとともに。ワインの試飲や情報の交換、新しい出会いの愉しみ…これはすべて、ボルドーの人々が守り共有してきた文化です。ここは世界で最大最古、そして最高品質のぶどう栽培地。ブランドは60を超え、広さは112000ヘクタールにも及びます。その豊かな実りを分かち合うため、シャトーと呼ばれる多数のワイナリーがその門を訪問者に開放しますが、それは1つ1つ異なるワインへの旅となることでしょう。



2018年のハイライト

2018年はボルドーの文化とワインの年。世界各地からの訪問者を惹きつける2つの大きなイベントが予定されています。1つはボルドーワイン祭り、そしてもう1つが海洋博物館の開館です。

海洋博物館オープン!

海洋博物館は6月にバッサン・ア・フロ地区にオープン。海洋の歴史、科学、文化にまつわるさまざまなものが展示されます。ノルベール・フラダンの後援を得て、その広さは6000平米に及び、最新設備を整えた資料館、飲食コーナー、視聴覚室なども併設されます。建物は7階建てで、船のボディーを連想させ、空間と光のささやきに満ちています。

また、記念すべきこの開館に合わせて、パリ・マルモッタン美術館所蔵の大地と海をモチーフにしたクロード・モネの名画が41点、9月まで展示されます。

オープンは2018年6月15日金曜日。ボルドーワイン祭りと同時期です。

www.museedelamerbordeaux.fr

一味違う2018年のボルドーワイン祭 り

ヨーロッパ最大のワインイベントであるボルドーワイン祭りは今年が20年目。ボルドーをはじめとするアキテーヌ地方のワインに捧げられるお祭りで、6月の14日から18日まで開催されます。試飲パス(Pass Dégustation)を使えば、ボルドー河川敷に3kmに渡ってのびるワイン街道で、地元のワインを試飲したり生産者と意見を交わしたりできます。

これを記念して、今回は、名高いトールシップ・レガッタを招きます。ル・ベレム、ル・モルゲンスター、ラ・ラワック、ラ・ティヤといった世界でも有数の美しさと大きさを誇る帆船が集結する競技会です。船はリバプールからスタートして、ダブリンを経由し、ボルドーの世界遺産『Port de la Luneー月の港』にはちょうど6月14日頃に到着予定です。

試飲パス前売り券:3月15日から6月10日(16ユーロ) 一般券:6月11日から(21ユーロ)

www.bordeaux-fete-le-vin.com



歴史的文化遺産と近代遺産を合わせもつ ボルドー

ユネスコ世界遺産登録の市街地の中で、ボルドーは世界一の広さ を誇ります。

ボルドーの中心部なら、ガロンヌ川を道しるべに、徒歩やトラム、自転車で見て回れます。街の北側にあり、かつてワインの仲買商の街として知られたシャルトロンles Chartrons地区は、今では骨董屋、古美術商、デザインショップが軒を並べます。プラタナスに囲まれたカンコンスの広大な広場la place des Quinconcesの向こう側に広がるのがグラン・ゾム地区Grands Homme。高級品店、瀟洒な邸宅、堂々たるグラン・テアトル(大劇場)le Grand Théâtreのあるこのエリアは「トリアングル」とも呼ばれています。広場や歩行者専用の小道に美味しいレストランが連なるサン・ピエール地区le quartier Saint-Pierreは、美食家や食道楽の楽園です。

ブルス広場とその背景にある18世紀の壮麗な建築のファサードは、ボルドー旅行の想い出に恰好のフォトスポット。その向かいには世界一大きな水鏡・ミロワール・ドーmiroir d'eau。水と細かい霧が織りなすスペクタクルには誰もがうっとりさせられます。

そこから目と鼻の先にあるペイ・ベルランPey Berlandには、ユネスコ世界遺産に登録された建造物が3棟あります。街の素晴らしい展望が見られるペイ・ベルラン塔la tour Pey Berland、サン=タンドレ大聖堂la cathédrale Saint-André、そして現在は市庁舎になっているロアン宮殿le palais Rohan。市の南部にある、カイヨ門la porte Cailhauとグロッス・クロッシュla Grosse Clocheは、コスモポリタンなサン=ミッシェル地区le quartier Saint-Michelへの入口になっています。

おしまいは、ピエール橋le pont de pierre を渡りガロンヌの右岸の散歩はいかがでしょう。岸に沿って作られた植物園や公園と同様に緑に恵まれたこの地区からは、「月の港」や文化財として登録された建物のファサードの素晴らしい景観が一望できます。

ボルドーには現代建築もよく似合います。それを代表するのが、ジャック・シャバンデュマス橋le pont Jacques Chaban-Demas、シテ・デュ・ヴァンLa Cité du Vin、大審裁判所le Tribunal de Grande Instance, ボルドーの新スタジアム・マットミュット・アトランティック・スタジアムle stade Matmut Atlantiqueなどです。

便利なボルドー・シティパス

このシティパスは公共交通機関だけでなく、ボルドー近郊の美術館や歴史的建造物といった主要な観光名所で利用できるICカードです。ワインの総合施設「シテ・デュ・ヴァン」の朝の見学も含まれています。料金:24時間券29ユーロ、48時間券39ユーロ、72時間券46ユーロ

観光案内所のほか、TBMやインターネットxxxでも購

www.bordeauxcitypass.com

入できます。



ボルドーのお薦めガイドツアー

毎朝10時、観光局ではボルドー発見のガイドツアーを行っています。他に例をみないほど豊かな建築群をたずねるこのツアーは、ボルドー滞在の初めに街を把握するためにも不可欠です。参加費は12€。シティパスに含まれています。

www.bordeaux-tourism.jp



世界と繋がる港・ボルドー

ここ数年の間にボルドーはトレンディーなクルージングのデスティネーションとして定着し、海洋クルージングの寄港地として、大西洋側の港の第2の地位を占めるようになりました。

ボルドーは、文化遺産や美味しい料理、歴史との出会いもある個性溢れる寄港地です。2017年のクルージングシーズンは、ボルドーの港に錨をおろした海洋クルーズ船は48艇、合わせて3万3000人の乗船客を迎えるという記録的な結果をもたらしました。

ガロンヌ川とドルドーニュ川に沿って

ボルドーは、河川クルーズ業界では「スタート地点」としても定着しています。すでにCroisiEurope、Viking River Cruises、Uniworld、Scenic Cruises、Grand Circle Travel、AmaWaterways、Aquitaine Croisièresが参入し、ガロンヌ川からカディヤック、ドルドーニュ川からリウブルヌなど、ボルドー周辺のぶどう畑を見学する一週間の河口クルーズなども提案しています。

日帰りのクルージング

シカンブル号**Sicambre**に乗船して、ワイン学を学ぶ全日や半日のコース、ぶどう畑でのアペリティフや、寄港地での文化散歩も含むガイド付きのクルーズ、ディナー付きクルーズなどはいかがでしょう。

bordeaux-river-cruise.com

ボルドーにもバトー・ムッシュ! **Burdigala**は、解説付き1時間半クルーズを提供しています。フランス語と英語、料金は15€。

www.croisieresburdigala.fr

シャトル船**« Batcub »**の乗り場は、ボルドーとロルモンに5カ所。シ テ・デュ・ヴァンからもご乗船いただけます。トラムチケット 1 枚と同じ 料金で岸から岸へ渡る、ユニークな交通手段です。

www.infotbm.com/en/boats-batcub

ごみ収集を船で

フランス初の試み!2017年、『月の港』を通る80の船舶のごみが荷船によって収集されました。実験的に行った船によるごみ収集で、クルーズ船から出るごみ200種類およそ100トンを集めることに成功し、一日当たりトラック5台分にも相当するゴミが中心街を通ることなく処理されました。2018年の繁忙期にも引き続き船でのごみ収集が予定されています。

http://bit.ly/2hK54Kx



豪華クルーザー用のはしけ導入

今年は5艘の豪華クルーザー(スカット、レディーM、ペロリュス、シーウォーク、キスネット)の寄港がセンセーションを巻き起こしました。2018年には、豪華船の寄港はさらに増えるでしょう。5月にサービスを開始する新しいはしけにより、3500トンまでの船を受け入れることができるようになります。6月のボルドーワイン祭り20周年に来航するトールシップ・レガッタの帆船団受け入れに活躍することも間違いありません。

www.bordeaux-tourism.jp



ボルドーのワイン街道

ボルドーのワイン街道は1本きりではなく5本もあるのです! 60の原産地統制呼称AOCを有するジロンド県は、フランス最大のぶどう栽培県であり、生産されるワインは世界中の愛好家の憧れの的です。そこここにあるボルドーのワイン街道には、宿泊施設、レストラン、ワインバー、ワイナリー、その他Vignobles et Découvertes®に掲載されているさまざまなアクティビティがいっぱい。

ぶどうでできた街!ボルドーおよびその近郊では20種以上のぶどうが 栽培されています。

左岸では南に針路を取り、ボルドーの葡萄栽培の誕生の地、ペサック=レオニャンPessac-Léognan、グラーヴGraves、ソーテルヌSauternes、バルサックBarsacなどへ向かいましょう。見逃せないのは、マルティヤックにあるコダリ自然泉のヴィノテラピー・スパSpaVinothérapie。メドックMédocでは、シャトー街道とも呼ばれるジロンドの県道2号線に沿って、ボルドー高級ワインのマルゴーMargaux、ポイヤックPauillac、サン・ジュリアンSaint-Julien、サン・エステフSaint-Estèpheなどへ。おすすめ:シャトー・マルキ・ダレム(château Marguis d'Alesme)での« La parenthèse enchantée »試飲

向こう岸にあたる、右岸の河口に位置しているのは家族経営のぶどう畑、コート・ド・ブレイcôtes de Blayeとコート・ド・ブールcôtes de Bourg。息をのむような河口の眺め、ロマネスク教会、ガロ=ローマ時代の考古学遺跡。さらに郷愁をさそう数々の小さな漁港まで揃って、趣を添えます!新スポット:コート・デ・ブール(Côtes de Bourg)のワインバー。ワインファンの観光客なら見逃せません。ドルドーニュの息を呑むような眺めも楽しめます。ドルドーニュ川の右岸には、1000クリュの丘の別称を持つサン=テミリオンSaint-Emilion。中世の家並みとユネスコ世界遺産に登録されたぶどう畑で名高い村です。お試し:シャトー・コルメイ・フィジャック(Château Cormeil-Figeac)では、毎週日曜日にワークショップが開催されます。

「ボルドーのトスカーナ」と呼ばれるアントル=ドゥー=メールEntredeux-mers、では赤ワイン、ロゼ、薄色のクレレットに加え、幅広い種類の白ワインなど、多種多様なワインを生産されています。ここもぜひ:シャトー・レイニャック(Château Reignac)は「国際ワインツーリズム2018」に選ばれました。

ソーテルヌの新名所を巡る旅

ソーテルヌも変化しています。シャトー・ギローは 2月からレストラン「ラ・シャペル・ド・ギロー(La Chapelle de Guiraud)」を営業します。メニューに はその土地の有機食材が使われ、一流のワインとの 相性も抜群です。

そこから少し離れたところには、シャトー・ラフォリー・ペラギー(Château Lafaurie-Peyraguey)が、全館ラリックによる装飾のレストランとホテルを2018年5月からオープンします。さらに、マリオ・ボッタ設計のスパも近日完成予定。



ぶどう畑への出発点

ボルドー観光事務所では、ボルドーから出発する、様々なテーマのコースを数多く(ハイシーズンには60にも上ります!)ご案内しています。内容はワインと史跡、ワインと美食、ワインを学びながらのクルーズなど。午前、午後、または全日のコースで、シャトー見学や、ぶどうの作り手との出会い、ティスティングの手ほどきなどをお楽しみいただけます。料金は21から200€

www.bordeaux-tourism.jp



ボルドーの象徴・シテ・デュ・ヴァン CITE DU VIN

ボルドーのワインツアーのための灯台、あるいはボルドーそのものの象徴と呼ばれることもあるシテ・デュ・ヴァン。ボルドー観光には欠かすことができません。ナショナル・ジオグラフィック社が世界で7番目に素敵な博物館と格付けたシテ・デュ・ヴァンで、ボルドーでの忘れられない時間をお過ごしください。

シテ・デュ・ヴァンは2016年に完成したXTU事務所設計の博物館です。常設展は19のテーマ毎にワイン文化について学べる体験型の珍しい施設で、見学の最後は8階でのワインの試飲で締めくくります。より深く知りたい人のために、没入型多感覚スペースや若者向けの教育ワークショップなど、3つのテイスティングエリアがあります。

催し物もいろいろ

年に2回入れ替えの臨時展もあります。3月23日に始まるのは、ワインと音楽に特化した展示で、9月から12月には、ポルトのワイン生産に焦点を当てた展示が計画されています。トーマス・ジェファーソン・ホールでは、コンサートやショー、映写会、会議、討論会などが一年を通して開催されています。

さらに、展望レストラン「Le 7」を含む3つの飲食施設や、250m²の広さのコンセプトストア、そのほか、14000本ものワインが並ぶカーブや読書サロンがあり、パーティーもできます。

スケジュール

1月1日~3月31日:10:00~18:00 4月1日~8月31日:10:00~19:00

平日9月1日~12月31日:10:00~18:00

9月1日から12月31日までの週末および祝祭日:10:00~19:00

6月15日と16日の23:00まで

閉会:2018年1月10日、17日、24日、31日、2月7日

チケット価格:20€

www.laciteduvin.com/en

見学のあとは、ボルドーのぶどう畑へ

一階にある、インフォーメーション・スペース「ワインの道」では、ボルドーのぶどう畑をもっと知りたい方々に、スタッフが情報やアドバイスを提供しています。マンツーマンのサービスの他、ボルドー周辺のワインツーリスムの主要な情報を網羅したポータルサイトwww.bordeauxwinetrip.comからも、ぶどう畑の見学やツアーが予約できます。

www.bordeauxwinetrip.com

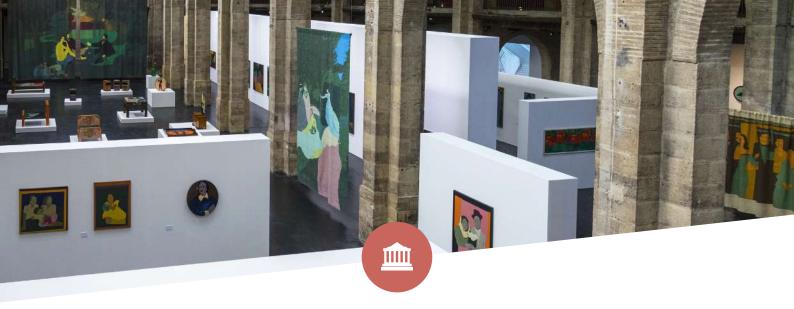


エキスポジション「ワインと音楽、 調和と不調和」

いつの時代も、お祭りや祝宴、酒場にはワインと音楽がつきものです。

この展覧会は3月23日から6月24日まで開催されますが、140の作品と16世紀から19世紀にかけての異なるリスニングポイントと3つの集合的リスニングキャビネットに分かれた音楽の旅を通して多様性を描き出します。

この企画はCNRSの責任者フロレンス・ジェラトーの監修によるものです。



ボルドーの文化トピックス

ドラクロワ、ピカソ、ブリューゲル、ビュラン、ゴヤ、ジェフ・クーンズの共 通点をご存知ですか?ボルドーにある15の美術館・博物館で、彼らの 作品が鑑賞できるのです。多様で充実したプログラムを展開するボル ドーの文化イベントは、あらゆる好奇心を満足させます。

歴史への情熱!アキテーヌ博物館 le musée d'Aquitaineは先史時代か ら今日までのボルドーとアキテーヌ地方の歴史を生き生きと蘇らせます。

www.musee-aquitaine-bordeaux.fr/en

ブルス広場に面した壮麗な館にある国立税関博物館 le musée National des Douanesでは、あまり知られていない税関の制度を、 税関用品や芸術作品によってわかりやすく説明しています。

bit.ly/NationalMuseumofCustoms

2016年4月末に礎石が置かれ、建築が始まっています。2018年には ボルドーのバッサン・ア・フロに、海と海洋の博物館Musée de la Mer et de la Marineが誕生する予定です。

www.museedelamerbordeaux.fr

美術への情熱!ロアン宮殿の一翼を占めるボルドー美術館le musée des Beaux-Artsには、ティツィアーノからピカソに至る絵画や彫刻な ど、330点の作品が収蔵されています。動物画を得意とする、ボルドー 出身の画家ローザ・ボヌールの作品もお見逃しなく。

www.musba-bordeaux.fr/en

装飾芸術デザイン美術館内 Musée des Arts Décoratifs et du Designの当時の家具調度や内部装飾は、フランス革命時代のボルド 一の貴族の傑出したライフスタイルの例を今に伝えます。

www.madd-bordeaux.fr/en.html

コンテンポラリー・アートへの情熱!ボルドー・メトロポールには、常 設コレクションがフランス屈指の豊かさを誇るCAPC(作家の数190 、1300を超える作品)や、豪華なラボティエール館の中にあるベルナ ール・マグレ文化研究所l'Institut Culturel Bernard Magrezなど、 いくつもの現代アート・スポットがあります。

www.capc-bordeaux.fr/en www.institut-bernard-magrez.com

シャトーでアート

のどかな景色の広がるエイジーヌの街にあるドメー ヌ・レコンブ(Le domaine de Lescombes)には、 教育菜園や16世紀の鳩小屋、農耕具博物館、現代 美術センターなどがあります。華麗な17世紀の内装 で、2018年にはエリズ・バーバラ、イヴェット・ド・ラ・ フレモンディエール、エマニュエル・ルブラン、ピエー ル・ド・ベロエタ、エルヴェ・テレマックといったアーテ ィストを迎えます。

eysines-culture.fr/lieux/chateau-lescombes/



CAPCカフェ

2階には超モダンなCAPCカフェもあります。アンド レ・プットマンやリチャード・ロングの作品に囲まれ た隠れ家のような雰囲気の中で、繊細な味を楽しむ ことができます。同じくアンドレ・プットマンによるデ ザインのテラスは、平和の港とでも言えましょう。

www.capc-bordeaux.fr/en/actuellement-en



もう一つのボルドー

ボルドーには自由の風が吹いています。10年以上前から、オルタナティブでアンダーグラウンドなプロジェクトが町のあちこちで開花しています。ミュージシャン、グラフィスト、彫刻家、デザイナー、画家など多様なアーティストがこの街には集まっています。

都会の遊休地利用

最小限のもので最良のものを。これはダーウィン進化論の核心ですが、 グリーンエコを目指す理想の都市を作ることも同様です。右岸にある 昔の軍事兵舎は、都市農園やスケートボード場、世界中から来るグラ フィストたちが自由に使えるオープンギャラリー、有機食品店やレスト ラン、共有オフィス、自転車ポロ場などに変身しました。

シャバン・デルマ橋の反対側は、「レ・ヴィーヴル・デ・ラート (Les Vivres de l'Art)」というアーティストのためのアトリエです。展示会やコンサートなどが開かれるほか、カフェレストラン「PIP(不完全に完全な圧力)」とのコラボも。

ストリートアートの都、ボルドー

20年ほど前から、ボルドーの街の壁にストリートアートが見られるようになってきました。フルカラーグループのアルベール や ベンジャミン "ザルブ"セラーノのように、地元のアーティストから国際的レベルにまで達することもあります。シャルトロン地区では、ポール・マグネティックの発案によるM.U.Rが一日限りのフレスコ画を描いたりもしています。

アンダーグラウンド音楽

ロックについては、ボルドーは昔も今も有数の都市のひとつですが、エレクトロ、ラップ、ヒップホップ、ポップフォークなどその他のジャンルも出現しています。ボルドーのグループ、I Am Stramgram Bengale、Eiffel、JC Satan、Cocoonなどがその立役者です。

この音楽文化をはぐくんでいるのが、Bordeaux Rock、Tremplin des 2 rives、Relache、Ocean Climax、Vibrations Urbainesなどのボルドー・メトロポールのフェスティバル。エレクトロニック・カルチャーに関する数多くのイベントが音楽シーンの多様性に貢献しています。

POLA工房の新施設

15年間ボルドーで現代的な創造と芸術の生産に 打ち込むPola工房が、2018年5月に新しい施設 をオープンする予定です。ブラッザ河岸にある古い Pargade塗料工場の倉庫を改装、アーティスト20 名ほどに居室を提供するほか、ワークショップや広 大な展示スペース、会議室、食堂、ショップなどを備 え、一般にも開放されます。



Loading.

メイド・イン・ボルドーのビデオクリ ップ

こうした芸術的興奮をさらなる魅力要素に変換するために、ボルドー観光局は昨年に続き、地元アーティストにプロモーションビデオの制作を委任します。スプレンダーイングラスグループの助力を得てボルドーのアニメスタジオUmamiが、実写、3Dイメージング、アニメーションでボルドーを紹介します。 クリップはバーチャルリアリティで満ちています。 2018年の春には試写用フィルムが見られます。

http://bit.ly/2BtM5gr



ボルドー・ナイトライフ

テラスで一杯もよし、屋上から街を見下ろすもよし、ライブコンサートに耳を傾けるのも、にぎやかなバーやクラブで踊るのも、お気に召すまま…。ボルドーのナイトライフは生き生きとして、予期せぬ愉しみに満ちています。

一杯やるなら: 議会広場、サン・ピエール広場とカミーユ・ジュリアン広場を 結ぶ盛り場トライアングルにはたくさんのテラス付きビストロやカフェがあ り、温かい雰囲気を醸し出しています。

バー「コンテス (Comtesse)」のキッチュな中国風装飾、「アルシミスト(錬金術師、Alchemist)」のアメリカ禁酒法時代風の威厳ある雰囲気、古い教会を芸術・実験映画館とテラス付きのバーに改装した「ユートピア(Utopia)」。パレ広場では「シェ・フレッド(Chez Fred)」に立ち寄りましょう。カイヨー門を鑑賞しつつ一杯飲むのに最適の場所です。Fernand Lafargue広場あたりに行けば多彩な人々の集まるバー「アポロ (Apollo)」、ブーシェリー通りではケベック・バー「オー・ヌーヴォー・モンド (Au Nouveau Monde)」が有機地ビールを提供しています。 町の眺望を楽しむため、天気のいい日はママ・シェルター (Mama Shelter)とインターコンチネンタルの屋上が解放されています。

ライブコンサートを楽しみたいなら、ガスコーニュワインバー「ル・レペール (Le Pépère)」のセラーに向かい、ニューオリンズサウンドに乗ったエキサイティングな雰囲気に浸りましょう。ライブは毎月第一火曜日です。サン・ミシェル地区の「レ・トロワ・クー (Les Trois coup)」では、小さなホールにあらゆるジャンルの洗練されたアーティストたちを迎えます。6月から10月まで、野外での飲食ができる「シェ・ザルリグ (Chez Alrig)」はほぼ満席。植物園の近くの「ル・カイユ (le Caiilou)」は夏場、野外コンサートで最先端のジャズプログラムを提供します。

よりロックでエレクトリックな雰囲気を求める地元民には「アンティドット(Antidote)」や「ブンダバー(Wunderbar)」、「カルティエ・リーブル(Quartier Libre)」、またはバッサン・ア・フロの平底船を改造した「リ・ボート(l'i.Boat)」が大人気。

セノンのロッシェ・デ・パーマー(Rocher de Palmer)、ロックスクール・バルベイ(Rock School Barbey)、メリニャックのクラカトア(Krakatoa)、タランスのアンティロイユ(l'Antirouille)でも、高く評価されたボルドーの音楽シーンを楽しむことができます。

もっと夜を楽しみたい人は、バッサン・ア・フロへ。ハウスボートクラブ「ラ・ダム (La Dame)」、または市内中心部の「ル・セルクル (Le Circle)」、「ル・ ブラック・ダイアモンド (le Black Diamond)」、「モンセニョール (Monseigneur)」に向かいましょう。学生たちは「ラ・プラージュ (La Plage)」など多くのナイトバーやパブ、クラブの並ぶパリュダットの岸に集まります。夜が明けるまで飲み続けたければ、午後11時にオープンするブーキエール通り (la rue Bouquière) のバー街はいかが?

ジャズからオペラまで

ボルドーオペラ座は、見逃せないジャズの有名アーティストを迎えた伝統的かつ革新的なプログラムを提供しています。シーズンの後半には、壮大な建築と音響室に、偉大な伝統の中で「リンカーンセンター管弦楽団のジャズ」現代ジャズの名高いビッグバンド、ユン・サン・ナ、この20年で最も影響力のあるジャズメンの一人ブラッド・メーローを迎えます。

www.opera-bordeaux.com



環境保護にも気を使った クライマックスフェスティバル

2015年にクライマックスフェスティバルを始めたダーウィンと非営利組織サーフライダー基金の賭けは成功しました。ポップ、ロック、エレクトニック音楽コンサートと環境問題に関する無料の講演を組み合わせるという驚きの試みです。啓発に重点を置くということに忠実に、第4回となる今年は、パルメール公園で9月初旬から「第6絶滅種」をテーマに開催されます。

climaxfestival.fr



ボルドー・珍しいアクティビティ

珍しい、革新的な、風変わりな、など、ボルドーは、珍しいアクティビ ティには事欠きません。必見アクティビティをまとめました!

楽しいシェルターハウス

雲、フクロウ、星などの形をした10棟のシェルターが、ボルドー都市圏の近郊登山者を楽しませています。2017年、ボルドー湖畔に小さな巻貝型のNeptuneaが設置され、コレクションが増えました。

http://lesrefuges.bordegux-metropole.fr

遅いティータイム

ボルドーの街にはびっくりするようなお店もいくつかありますよ! 食事なら市内で一番古いグルメレストラン「ル・シャポン・ファン (Le Chapon Fin)」は岩や貝模様を使ったロカイユ様式デコレーション。飲んでからサーフィンーまたはその逆ーなら、「ウェイヴ・サーフ・カフェ(le Wave Surf Café)」へ。古い教会の真ん中でちょっと何かつまみたければ、「カフェ・ユートピア(Café Utopia)」に駆け込みましょう。食べる?ショーを見る?「ラ・グランド・ポスト(La Grande Poste)」なら両方かないます。 最後に、「ロートル・プティ・ボワ(l'Autre Petit-Bois)」。店内が実物大の木やバロック様式の装飾にあふれ、お茶や食事をしたい妖精ファンには楽園です。

20年代を旅する

LaCitéFrugèsの50棟の住宅群-1924年から1926年にかけ、良質の公共住宅をすべての人々に提供することを目指して、ル・コルビュジェがPessacに建設したものです。その幾何学的形状、色彩や素材の多様さが目を引くこの地区は今日、建築愛好家のランドマークとなっており、2016年7月にユネスコの世界遺産に登録されました。

www.pessac.fr/cite-fruges-le-corbusier.html-0

バンカーでボルドーウイスキーをお楽しみください

ムーン・ハーバー:この名前は無意味につけられたものではありません。ボルドーを通るガロンヌ川によって形成された三日月形を指しています。ボルドーで作られたこのウイスキーには2つの特徴があります。蒸留所がかつてバッサン・ア・フロにあったトーチカを利用していること、そしてこの美酒が45°8の混合ウイスキーはソーテルヌのオーク樽で、ピート混合麦芽はボルドーの赤ワインの樽で仕上げられていること。

これぞボルドー、ですね!

http://moonharbour.fr/en/

マルチメディアによるガイド付きの 車で、ぶどう畑とボルドーの街を 探訪

Memosineは、ボルドーやぶどう畑の観光に、マルチメディアによるガイダンス装備の車をつかうという新しい方法を提案しています。利用者は360°の見渡せる2人乗りの電気自動車でのボルドーの市内観光、または屋根の外せるカブリオレでのぶどう畑のドライブを、タブレットの案内に従いながらお好きなペースで楽しむ事ができます。

www.memosine.com



市内中心部の緑のオアシス

ボルドー旧市街の中心部に隠れるように、静けさと特色ある外観のヴィネ広場(le square Vinet)があります。 植物学者のパトリック・ブラン氏によってデザインされた、長さ100mのこの庭園は、これまでに作られた最も長い壁面庭園で、子供たちの遊び場にもなっています。

www.bordeaux.fr/l907



みずみずしく生き生きとした創造的な大都市 のウェブ雑誌!

田園の散策道、新しい余暇の過ごし方、型破りなスポット、そして住む人たちが共に考える素敵な構想etc.を満載!「アン・エール・ド・ボルドー (Un Air de Bordeaux)」は、ボルドー都市圏の自然の景観、文化的なダイナミズム、そして隠された宝石の数々を(再)発見したいと願う地元民や観光客のための新しいデジタル出版物です。

毎年数百万人の旅行者が訪れるボルドーは今追い風に乗っています。 傑出した近代遺産に歴史、花咲く食文化、河岸地区の再開発、沸き立 つアート:人々を楽しませるすべてのものがそろっていると言わなけれ ばなりません。ボルドー都市圏を構成する27の市町村は、信じられな いほど多様な自然の風景、文化的なダイナミズム、象徴的な地方の祭 りなど、大きな可能性を秘めています。

アン・エール・ド・ボルドーは、観光スポット、イベント、それに関わる人々とその活動を応援し、ボルドー都市圏の景観と文化の豊かさを盛り立てるためにオンラインで情報を発信します。

アン・エール・ド・ボルドーの役割は、さまざまな人々が行き交う中にあります。日曜日に散策する人たち、家族連れ、一時的な滞在者、旅行者、永住者など…。一人一人の顔が見える、環境にやさしい観光をめざし、その土地ならではの秘密を地元住民とシェアします。 身近さ、信頼と誠実、分かち合い、そして開放性がキーワードです!

ボルドー文化のDNAに基づいたテーマで編集しているのがアン・エール・ド・ボルドーです。自然、文化、子ども、芸術、スポーツといったカテゴリー毎に様々な情報を取り扱っています。「XXXのすごい週末」、「XXXをやってみた」、人気ランキング、インタビュー、人物紹介などの記事を、地元のアーティストによる厳選された音楽を聴きながら読むことができます。もちろんイベント情報もありますよ。

www.unairdebordeaux.fr

モバイルサイトとソーシャルサイト

アン・エール・ド・ボルドーは、時代の要請に応える 形で、主に携帯電話用に設計されています。 記事の 多くはコンパクトですが、画像とカジュアルなトーン のコンテンツは使いやすく、読者の期待に応えます。 ニュースレターや観光局のSNSとも連動している 洗練具合です。



アン・エール・ド・ボルドーのオリジナ ルグッズ

アン・エール・ド・ボルドー誌の挿絵を担当するイラストレーター、クロエ・カストのデザインによるトートバッグ、マグ、ペン、マグネット、バッジ、ポストカード、Tシャツ、箱入りのドラジェなどいろいろご用意しています。ボルドー・ツーリスト・オフィスで販売されています。 €1.50~€28。



地球環境に優しい街ボルドー

フランス人が住みたい街を調査すると、ボルドーは常にトップの 座を占めます。その理由は、生活環境の快適さ、人に優しい交通手 段への取り組み、そして活力溢れる地方でしょう!

2015年、ボルドーは世界で最も自転車走行に適した街トップ10にランクイン (source: cabinet Copenhagenizeによる)。163kmの自転車道に加え、セルフサービスの自転車VCub、1700台を有するボルドーの市街化地域が評価されています。ペダルをこいでボルドーをくまなく探検する7本のサイクリングルート(6.5~33km) はこちらから:

http://bit.ly/2mcR23E

他のオプション: 市の中心部の狭い道も通行できる小型電動バス Citeis 47、または、ベロタクシーHappy-Moovでの移動も環境に優しい交通手段です。

https://www.happymoov.com/transport

他に類を見ない自然遺産

ボルドー・メトロポールの中には、2万9000ヘクタールに及ぶ自然景観があります。 市街地では、コデラン地区のボルドー公園le Parc Bordelais、ジャルダン・ピュブリック le Jardin Public、スノンのパルメール公園le Parc Palmer de Cenon、バスティッド地区の植物園le Jardin Botaniqueで深呼吸。ボルドーの北にある、4500ヘクタールのジャレス公園le parc des Jallesは、ボルドー・メトロポールの緑のオアシス。車で10分ほどのブランクフォールにあるマジョラン公園le Parc de Majolan à Blanquefortの人工の洞窟もぜひ訪れたい所です。ガロンヌ右岸では、バッサン、ロルモン、スノンとフロワラックにかけて広がるコトー公園le parc des Coteaux。25キロの遊歩道があり、ここから臨むガロンヌ川の景観はまたとない美しさです。

ロマンチック・ウォーク

詩情や野趣が溢れるブランクフォールのマジョラン公園Parc de Majolanは、カップルや家族での散歩にぴったりの場所。人工の洞穴や、4ヘクタールの池、橋や珍しい樹々のあるマジョラン公園は、《傑出した庭園Jardin remarquable》に認定されています。



ボルドービーチ

ボルドーは、市内からも大西洋まで1時間足らず…。とはいえ街中にもビーチがあるのです!まず、ボルドーの北部にある湖のビーチ。そして南側のベーグル・ビーチ。どちらも緑地に囲まれた、監視付きの遊泳場で、オープンは6月から。



ボルドーで美食を

市場の売り台で立ったまま味わう、有機野菜や昔ながらのシンプルな、あるいは洗練された料理の数々… ボルドーは南西部の作物を愛する偉大なシェフや新世代の若いシェフたちの遊び場です。

マルシェ・デ・カプサン (Marché des Capucins) では、その場で食べることも、持ち帰りもできるいろいろな味を提供しています。 河畔シャルトロンの野外市場では、ガロンヌ川を眺めながらガロンヌ河口で採れる牡蠣、ボルドー料理トリコンディーユ (tricandilles) やグルニエ・メドカン (grenier médocain) というアンドゥイユ (andouille) の一種が楽しめます。 11月からは、シテ・ドゥ・ヴァンに面したレ・アル・ド・バカラン (Les Halles de Bacalan) にトリュフ職人、オイスターバー、フォアグラ、オーガニック料理の仕出しなど、30人ほどの生産者が集まります。

見逃せない店ばかりの中にあって、「ラ・トピナ(La Tupina)」は、1968年以来、伝統の味や南西部の名物料理にこだわりを見せています。もう1つのボルドーグルメの至宝:伝統がキーワードのブラッスリー「ロルレアン(L'Orléans)」、ボルドーの中心部に位置する「ル・ノアイユ(Le Noailles)」というボルドーで最もパリ風といわれるこのブラッスリーでは、何世代にもわたりグルメの舌を魅了しています。

新進のレストラン「コテ・リュ(Côté Rue)」、「ル・ア(Le Hâ)」、「ガロパピュ(Garopapilles)*」は、地方色豊かなごちそうで美食ファンをうならせます。慣れ親しんだ味を超越する「ソレナ(Solena)」の気難しいほどのシンプルさも愛されています。世界の料理の感化を受けた「ミル(Miles)」や、「ナマ(Nama)」、「ダン(Dan)」、「レキュイ(L'Exquis)」。

近年、手頃な価格の斬新な店がボルドーに続々オープンしています。サン・ミシェル地区の「ラトリエ・デ・フォール(L'Atelier des Faures)」はベルベル、ポーランド、インド、アジアなどの料理に触発されるとともにフランスの地方産品を再評価していますし、「ル・タカン(Le Taquin)」はシンプルな料理とカクテルでお客を魅了します。シャルトン河岸の「サンボワーズ(Symbiose)」は、ル・フーディングで2017年のベスト・バーに選ばれました。「ベル・カンパーニュ(Belle Campagne)」は地元の食材を使った料理で大評判になっています。

有機と菜食

ボルドーの街では有機野菜が大人気で、「ラ・キュイジーヌ・ド・ジョアナ (la Cuisine de Johanna)」、「ル・コスモポリス (le Cosmopolis)」、「キッチン・ガーデン (le Kitchen Garden)」、le Magasin Général など増える需要に応えるように新たなお店ができています。

ボルドーの星

ここ数年の間に、ボルドーには3人の星付きシェフが現れました。まず、2015年の「カトリエーム・ミュール(Quatrième Mur)」のフィリップ・エッチェベスト(Philippe Etchebest)、次に「プレソワール・ダルジャン(Pressoir d'Argent)」の英国人シェフゴードン・ラムセイ(Gordon Ramsay)(2つ星)、そして最後にグルメレストラン「ラ・グランド・メゾン(La Grande Maison)」(2つ星)のピエール・ガニェール(Pierre Gagnaire)。

ル・パヴィヨン・デ・ブルヴァール(Le Pavillon des Boulevards)はひとつ星です。ボルドー近郊には他にもブリアック(Bouliac)のサン・ジェイムス(le Saint James)(ひとつ星)とロールモン(Lormont)のル・プランス・ノワール(Le Prince Noir)(ひとつ星)もあります。



「BAILLARDRAN」のカヌレ教室

ボルドーの特産品であるカヌレを知るユニークな機会として、有名店「Baillardran」が開くカヌレ作り教室があります。 2時間に渡って、カヌレ学校の先生がバニラとラムが香るキャラメルに包まれた柔らかい小さなお菓子の手ほどきをします。カヌレだけでなく、ポレンタやレモングラス風味の鳥肉や、パンナコッタなども作れます。

www.atelierdeschefs.fr



宿泊施設

贅沢なホテル、チャーミングなホテル、コンセプトホテル、ペンションも しくは家具付きアパートメント...ボルドー都市圏は毎年何百万人もの お客様にご利用いただけるようにホテルのサービスを強化しました。

街の中心には、スパを備えたインターコンチネンタルやグランドホテル、ホテル・ドゥ・セーズなどの4つ星や5つ星の有名なホテルがあります。「シーコ (le Seeko'o)」、ワインバーを併設した「ブティックホテル(le Boutique Hôtel)」、スタルク設計の「ママシェルター(le Mama Shelter)」、「ロテル・ド・トゥルニー (l'hôtel de Tourny)」、親しみやすく豪華な「オテル・デ・カンコンス(Hotel des Quinconces)」、「ロテル・インドー(l'hôtel Yndo)」などのコンセプトホテルも旅行客に人気があります。 最後の1つ:Cardinal Hotelオペラハウスから100mの「ベストウエスタン プレミアホテル バイヨンヌエチェオナ(Best Western Bayonne Etche Ona)」は、アールデコ様式の雰囲気と個性的な部屋でお客様をお迎えします。

トラムで市内中心部に直接アクセスできるメリニャックとボルドーラクにあるチェーンホテルは、 プール完備、中心部に近いなどのサービスと利便性で、なじみのビジネス客だけではなく、年間を通し多くの観光客に利用されています。

マルティアック (Martillac) のスミス・オー・ラフィット城 (Château Smith Haut Lafitte) の葡萄畑の中心にあるレ・ソース・ドゥ・コーダリー (Les Sources de Caudalie) は、2016年に宮殿の認定を得ました。他にはルレ・エ・シャトー認定を受けているホテルがポーイヤック (コールデイヤン・バッジュ) やブリアック (サン・ジェイムス) にあります。

旅費を抑えたい方のために、「テアトル・ホテル(Theatre Hotel)」は、オリジナルかつファンタジーな内装の23の客室を用意しています。 「クレマンソーホテル(Clémenceau Hotel)」と「ガンベッタホテル(Gambetta Hotel)」は、18世紀のボルドーの魅力あふれる石造りのモダンで快適なホテル。ピエール橋(Pont de Pierre)の反対側に位置する「オテル・デ・ボワヤジュール(Hotel des Voyageurs)」は、2名様75ユーロからの客室を提供しています。2018年6月にはサン・プロジェ(Saint Projet)広場に若者向けホステルがオープンします。

誕生したての「ラ・カサ・ブランカ(La Casa Blanca)」と「ラ・クルス(La Course」)、そして「ユヌ・シャンブル・アン・ヴィル (Une chambre en ville)」、「ロテル・パルティキュリエ(L'hotel Particulier)」、「ラ・メゾン・フレドン(La Maison Fredon)」・・・豪華ホテルや美しい邸宅が、ボルドーで生きる歓びを宿泊客におすそわけ。

ラディソン・ブル、ボルドーに開業

2018年前半に、「ボルドー・マリタイム・ラディソン・ブル・ホテル(Le Bordeaux Maritime Radisson Blu Hotel)」がバッサン・ア・フロ地区にオープン予定です。この125室の4つ星ホテルには、会議室、展望レストラン、スパ、フィットネスセンター、ショップのほか、バッサン・ア・フロやシテ・ドュ・ヴァンを望むスカイバーもあります。



旧動物学研究所の豪華な4つ星ホ テル

鉄道駅周辺の変容を遂げる地域で、旧動物研究所を改装した「オテル・ズォーロジー(Hotel Zoologie)」が2018年6月に開業。40室の客室、レストラン、スパ、屋内庭園があります。20世紀初頭に建てられたこの研究所は、レンガ、石と金属に大きなガラス屋根を組み合わせたもので、当時の大学建築の姿を今に伝えます。

www.hotelzoologie.com/en/



ビジネスツーリズムのデスティネーション としてのボルドー

こちらも絶好調! ボルドーは本格的なビジネスに最適の場所で、 毎年多くのプロイベントが行われています。

ボルドーは、世界レベルでの会議や見本市に絶好の場所であると断言できます。2017年は、4000人が集まったAPM (Association Progrès Management)のコンベンションや、全米弁護士総会などが開かれ、国内的にも国際的にも新記録を打ち立てた1年でした。

2017年にボルドー市内で行われた75のイベントのうち40は国際的なもので、計5万5千人の参加者とのべ189,000日に及ぶ会議を受け入れました。

注:ボルドーは、国内および国際レベルでのビジネスコンベンション開催地としての地位を強化するべく多岐にわたる努力を続けています。

ボルドーのビジネスの魅力は、魅惑的な新しい名所La Cité du Vin、ボルドーをパリに近づける高速鉄道の開通、Parc des Expositionsの新しいホールなどメトロポリスが投資する新しい会議施設の充実などにより、いっそう増大しています。2018年には、「ロテル・ラディソン・ブルl'hôtel Radisson Blu」(125室)、「ヒルトン・ガーデン・インHilton Garden Inn」(164室)の開業や、航空会社の増便や新規路線(リガ、ワルシャワ、ハンブルク、フランクフルト、デュッセルドルフ…)によりさらに充実するでしょう。

加えて、ボルドーは大西洋の前線であり、光学技術とレーザー技術の 先導的地位であり、ナノテクノロジーとバイオテクノロジー、神経科学と ICTの強力な専門知識を持つ航空宇宙プールを持つ競争力のクラスターを刺激します。健康、木材、持続可能な建設。

2018年のメインとなる会議プロジェクトは国際会議です。これには、世界看護師協会総会(2,000人)、ISMPシンポジウム(1,500人)、第5回全身硬化症世界会議(1,200人)が含まれます。

ボルドー・アンバサダー・クラブ CLUB DES AMBASSADEURS DE BORDEAUX

ボルドーをプロモートし、コングレスなどの誘致をさらに進めるため、コンベンション・ビュローは、2007年にボルドー・アンバサダー・クラブを立ち上げました。研究者、科学者、エンジニア、経済界・研究開発・産業界の有力者など、ボルドーの会員220名で構成されています。全員が、ネットワークや協会で活躍するメンバーであり、それぞれの専門分野の主要会議のボルドーでの開催を支援します。

http://bit.ly/2ilwKuU



大統領府

会議、セミナー、インセンティブツアーの主催者の方々をお手伝いするために、ボルドー・コンベンション・ビュローのスタッフが開催場所、業者、アクティビティの選択に関する専門的な知識を無料で提供します。ビジネスイベントの主催者のための実用ガイド「ボルドー・コングレス&ミーティング・ガイドBordeaux Congress & Meeting Guide」をご参照ください。

www.bordeauxconventionbureau.fr/en



ビジネスツーリズム:将来を視野にいれる ボルドー・メトロポール

シテ・デュ・ヴァンのオープン、ユーラトランティック計画、高速鉄道路線LGVの開通、バッサン・ア・フロの開発整備など、2017/2018にボルドーは、ビジネスツーリズムに適した近代的設備や、インフラの拡充の工事を完了させます。

街の核である中心地区には3つのスポット: シテ・モンディアルCité Mondialeが300席のホール・講堂、パレ・ド・ラ・ブルスLe Palais de la Bourseが豪華なレセプション会場を、Hangar 14は見本市や新製品発表に最適な5400㎡をご提供します。

ボルドーの鉄道駅la gare Saint Jeanや街の中心部からトラム(C線)で15分の立地のボルドー・ラックにあるパレ・デ・コングレle Palais des Congrèsでは、自然溢れる環境の中に、合計1850席の3つのホール/会議室を備えており、5分以内の場所に1400の宿泊客室、15のレストラン、カジノがあります。

Parc des Expositionsの大改装・近代化のおかげで、ボルドーは 2018年以降、大規模な会議や大会の開催地として位置づけられるでしょう。 面積14,000㎡の新しい多目的ホールには、1,000㎡のレセプションエリア、13の可動式会議室、7,400㎡の完全モジュラー式メインホールを用意しています。

合計1320軒、約32000床の宿泊施設

コンベンションセンター近くのビジネスホテル、魅力的なぶどう畑の中のチャーミングなホテル、街の中心にあるゲストハウス、さらには240棟のバンガローがある4つ星のキャンプ場など、ボルドー都市圏は多様な選択肢を用意しています。

今後5年間で、さらに2500の新しい客室が増えます。バッサン・ア・フロのラディソンブルホテル、駅に近いヒルトンガーデンインとゴールデンチューリップ、ビクトワール地区のホテルグループAngélys、そしてLa Cité du Vinの近くにある2つの高級ホテルなどです。

ワインに関するボードゲーム

イン・ヴィノ・イベントが、WINE OPOLY®がチーム 対抗の試飲と有名なぶどう畑の売買ゲームを開発 しました。WINEO POLY®は、有名なボードゲーム のチームビルディング・パロディーで、このゲームで はテイスティングの感覚(視覚・嗅覚・味覚)をフル 活用します。10人から100人までで遊べます。

www.invino-event.com



水上ミーティング

ボルドー・リヴァークルーズ社 La compagnie Bordeaux River Cruiseでは、会議、ガラ・イブニングパーティー、インセンティヴ・セミナーやチームビルディング活動のために、3つの船を用意しています。また、お客様のご要望に沿って280人までの参加が可能なカスタマイズされたクルージングを企画いたします。プライベート・カクテルパーティーなどには、ジロンド河口の中程、ポイヤックの向いにあるパティラス島 l'île de Patirasへの寄港も可能です。

http://bordeaux-river-cruise.com



建築・デザイン・都市計画

北部のバッサン・ア・フロ、南部のユーロアトランティック:巨大建築物は都市の形を描き直すと同時に、「ボルドー 2030」を形作り、この街を21世紀の大都市のひとつとして定着させます。

都市計画家の街

ボルドー・メトロポールの建造文化財には、名高い建築家やデザイナーの設計によるものが見られます。フィリップ・スタルクPhilippe Starckのデザインした、ホテル・ママ・シェルターMama Shelterや、レ・カルム・オ=ブリオンのシャトーChâteau Les Carmes Haut-Brionのワイン貯蔵庫、ジャン・ヌヴェルJean Nouvelによるサン・ジェームス・ホテルhotel Saint James、ヘルゾーグ&ド・ムロンHertzog & de Meuron設計のMatmut Atlantiqueスタジアム、リシャール・ロジェRichard Rogersによる大審裁判所、アンドレ・ピュットマン Andrée Putmanが手がけたCAPC現代美術館など。

都市計画の大規模プロジェクト

北部では、バッサン・ア・フロBassins à Flot : 160へクタールに広がる巨大な工事現場では、竣工時には70万平米もの住宅、ホテル、経済活動の場、公共施設が誕生します。

南部では、ボルドー・ユーラトランティックBordeaux Euratlantique : この都市開発プロジェクトはフランスで屈指の規模であり、738へクタールの敷地はボルドー、ベーグル、フロリアックにまたがっています。50万㎡の事務所、1万7000戸の住宅、10万㎡の商業施設とホテルが、ボルドー駅に隣接して建設される予定です。

ユーラトランティック計画に含まれるスペクタクルホール、ボルドー・メトロポール・アレーナBordeaux Métropole Arena (11 300席) は、2018

www.bordeauxmetropolearena.com

ユーロアトランティック・プロジェク トと一体化したラ・アル・ボカ

駅とガロンヌの間には新しい生活の場が生まれつつあります。BOCAホールはボルドーの「BO」と、商業と飲食やビジネスを連想させる「CA」を合わせた名称。パリュダット岸の屠殺場跡とその周囲の歴史的建造物のなかに、屋根付きのマルシェや食料品店、イベントホールなどが現代風にリニューアルしてお目見えします。 すぐそばでは「ヒルトン・ガーデン・イン(Hilton Garden Inn)」やオフィスビルが建設中で、開業は2018年4月の予定。

http://halleboca.com



サン・ジャンSAINT JEAN駅の大 改装

超特急列車が発着するようになって発生した新しい 旅客の流れに対応するために、サン・ジャン鉄道駅 は3年をかけて広大な近代化と拡張プロジェクトを 行いました。大規模なホールとその堂々たるガラス 屋根の改装、ホール1と2の交換、ホール3の新設、 地下部分の近代化…あらゆる方向からの訪問者を 歓迎する美しいガラス張りのショーケース。

http://bit.ly/2CWQmXU



ボルドーでゴルフを

ボルドーの周辺には15余りのゴルフ場があり、ゴルフ好きの方々に幅広いチョイスを提供しています。市の中心部から15分で行けるゴルフコース、アルカション湾、メドックや、サン=テミリオンの丘陵に広がるコース…。



街中でゴルフができる幸せ!ボルドー・メトロポールには3つのゴルフ場があるのです。ゴルフ・ボルドレ le golf bordelais、ゴルフ・ド・ボルドー=ラック le golf de Bordeaux-Lac、もうひとつは、120ヘクタールの敷地にあり、松や池に囲まれたフェアウェイを持つゴルフ・ド・ペサックle golf de Pessacです。

心地よい潮の香りに包まれたアルカション湾で: ゴルフ・ド・ギュジャン le golf de Gujan (27ホール)の自然環境に合わせて作られた多彩なコースはフロリダを彷彿させます。

ビスカロスBiscarosseでは、ふたつの砂丘に挟まれたフェアウェイが狭く、テクニックが問われます。2013年に出来たばかりのゴルフ・デュ・カップ=フェレ le golf du Cap-Ferretは、この地方で唯一照明付きです。

次は、高級ワインと見渡す限りの海岸で知られるメドックへ針路を向けましょう。ゴルフ・ド・ラカノーLe golf de Lacanau (18ホール) は、松林の真ん中にある素晴らしい環境です。ランド、松、ヒースに囲まれた広いフェアウェイ・・・。ゴルフ・ド・メドックle golf du Médocは、どこかスコットランドを思わせる雰囲気が漂っています。18ホールのコース2つ、4つ星リゾートホテルを備えたこのゴルフ場は、ランキングの常連で、2014年にもフェアウェイズ・マガジンで1位に選ばれています。

美食家にはサン=テミリオンにほど近い、ゴルフ・ド・テイナックle golf de Teynac。丘とぶどう畑に囲まれた18ホールのゴルフコース、かつての醸造所の中に造られたレストラン、鳩小屋を改築したゲストハウスの魅力を存分に味わえます。

右岸の新しいゴルフ場

2015年10月、サン=テミリオンから数キロほどの、 ぶどう畑と樹齢百年を超えるブナの樹々に囲まれた場所に18ホールの5つ星ゴルフ場が誕生しました。グラン・サンテミリオネ・ゴルフ・クラブ Grand Saint-Emillionnais Golf Clubは、そのミニマルなスタイルと、自然の起伏を生かすことで知られた、世界屈指のアメリカ人建築家トム・ドークが設計を手掛けました。

http://bit.ly/SeGolfClub-en



新しいゴルフ場ヴィルナヴ・ドルノン (VILLENAVE-D'ORNON)で静 穏と景色を愉しむ

2017年9月にオープンしたヴィルナヴ・ドルノン (UGolf) ゴルフ場は、ガロンヌ川沿いに建つジェネスト城(château de Geneste) の敷地内にあります。 市内にほど近い80haの田園地帯に現在9ホールのコースがありますが、2018年中頃には18ホールに広げられます。

http://jouer.golf/villenave-dornon/



ボルドー、フランス南西部への玄関

ボルドーは今やフランス最大の地域圏の首都であり、すばらしい自然と 建築、文化遺産を誇っています。 ポワトゥーからピレネー山脈まで、どな たのどんなご希望にもお応えします!

ちょっと足を延ばせば、ジロンドの河口です。ボルドーからのドライブ、もしく はより爽快な川下りが、ユニークで魅力的な世界へと導きます

1時間ほど行けばアルカションの入り江。ベルエポックの駅舎や高級ヴィラ群、ピラ (Pyla) 砂丘、いくつもある小さな牡蠣養殖場、フェレ岬 (le Cap-Ferret)。波立つ海や、果てしない海岸、広々とした空間、香り豊かな松を見たいですか?リトラルやメドック・アトランティック方面には、ラカノー、スラック、モンタヴェット周辺の湖やビーチ、そしてヨーロッパ最大の森林であるランデスの森があります。

ボルドーから北へ1時間半ほど行くと、シャラント川(la Charente)沿いに有名なコニャック蒸留所が並びます。ジロンドの河口に面して芸術と歴史の街口ワイヤン(Royan)があり、沖合では、コルドゥアンの灯台が潮の干満に合わせて見え隠れします。

2時間あれば、ラ・ロシェル(la Rochelle)の古い港に着きます。ヨーロッパ最大級の水族館があり、沖合にはレ(Ré)、デ(d'Aix)、マダム(Madame)、ドレロン(d'Oléron)の島々。海と陸地の間で現実を忘れて自然を愉しむことができます。

あと30分かければ、ポワティエ(Poitiers)まで行って、サルの谷はいかがです

か。450匹以上のサルが安全に完全な自由を満喫しています。さらに数キロ行けば、そこはレジャーパーク「フュートロスコープ (le Futuroscope)」です。 東の楽園に向かいましょう。ペリゴール (le Périgord)にはご自慢の城々、サルラ (Sarlat)とペリグー (Périgueux)のグルメマーケット、ベルクラック (Bergerac)のワインのほか、国際壁画センター (Centre International d'Art Pariétal)にはラスコー洞窟の壁画のレプリカが収蔵されています。 リモージュではアドリアン・デブシェ (Adrien Débouché) 国立博物館が町を有名にした磁器のノウハウに関連する機械や道具を紹介しています。 さらに東へ1時間30分ドライブするとオービュッソン (Aubusson)。2016年夏に国際タペストリー美術館 (Cité Internationale de la Tapestry)がオープンしました。

南には、異国情緒豊かな陽気な雰囲気が味わえるバスク地方の村々や、サーフィンスポットで有名なビアリッツ、港町サン・ジャン・ド・リュズなどがあります。サン・ジャン・ド・リュズ(Saint-Jean-de-Luz)から10km離れたサール(Sare)の町には、観光客を標高905mまで運ぶ列車(la Rhune)が走っています。 その他、ヘンリー4世の故郷ベアルン(Béarn)、ポー(Pau)とその英国風魅力、自然の渓谷、ハイキングの名所やスキーリゾートなども有名です。

バンでロードトリップ

それは新しい旅の仕方。レトロな70年代のコンビレンタカーまたは現代的に整備されたバンが、ビアリッツまたはボルドーから、フランス南西部を変わった方法で発見することを提案します。それは 自由と同義語で、1週間以上旅行者は遊牧民のような生活を経験できます。 海を前にして、星の下で、または自然の真ん中で…。あなたは直感に従って夜の楽園を選ぶだけ。

www.campycamper.com/?lang=en



観光客への新しい提案

フランス西海岸全体の観光の発展を支援するために、フランス西部の12の観光案内所が、英語で詳細なパンフレット「フランス・アトランティック・ウェイ French Atlantic Ways »」を制作しました。モン・サン・ミッシェルからビアリッツへ、ナント、ラ・ロシェル、ボルドーなど、素晴らしい名勝地を巡る、伝統的なツァーに代わるコースです。フランスを発見するもう一つの方法としてお勧めします。

開催中

開催中

4月1日まで

建築に特化したスイス博覧会 会場:アルクエンレーブ(Arc en Rêve)

www.arcenreve.com

5月27日まで

« 抽象化 »展覧会: 会場 ベグル(Bègles)の la Création Franche 美術館

bit.ly/2qAglrW

9月2日まで

« 国境なきカートン・ボルドーからボルノまで »展。会場:ボルドー国税庁美術館

www.musee-douanes.fr

9月2日まで

« 光の街Luminopolis »博覧会 会場:キャップシオンス (Sciences)

www.cap-sciences.net

3月

ボルドー大都市圏における都市近郊避難所 の再開

bit.ly/1b5ReK4

3月2日-6月4日

「フィリップ・モリッツ – 夢の略奪者」展 会場 ボルドー美術館

www.musba-bordeaux.fr/en

3月4日

川の両岸のカーニバルとボルドーの2つの橋を渡る

bit.ly/1JXnfiS

3月7日-9日

« Cartoon Movie » アニメーション映画と デジタル画像のイベント

bit.ly/2yqUcoA

3月8日-5月20日

« デジタル深海 »展 会場:ラ・バッス・スー・マリン 水中(潜水艦)基地

bit.ly/2bsRalw

3月24日

ボルドー都市圏 夜のマラソン

bit.ly/2o4eyi7

4月

4月1日-29日

旅する写真家の道のり 会場:ボルドー各地 bit.ly/2BPiHPv

4月6日-8日

« レスカル デュ リーヴル 本のトランジット»第16回、ボルドーのSainte Croix地区の作家とイラストレーターの作品を集めた祭典

escaledulivre.com

4月8日-15日

帆船マリテ号寄港 場所:ボルドー港

www.lemarite.com

4月26日-9月16日

デザイナー マーティン・Szekelyによる «建

設»展 会場: 美術工芸品博物館

www.madd-bordeaux.fr

5月

5月8日-13日

ボルドータンゴフェスティバル

bit.ly/2I044RB

5月12日-21日

エキスポ広場にてボルドー国際見本市

bit.ly/1Eo8mlJ

5月17日-9月

CAPC美術館ラ・ネフにてDanh Voインスタ レーション・イン・シテュ

www.capc-bordeaux.fr

5月18日-21日

タランスにて第4回ODPフェスティバル

www.festival-odp.com

5月28日-11月4日

アキテーヌ美術館にて「南の海のジャック・

ロンドン」展

bit.ly/1vDJ27l

6月

6月1日-3日

Morue(タラ)祭り第22回

bit.ly/1N67kFS

6月9日-24日

Les Epicuriales、トゥーニー川沿いの小路 をめぐって楽しむグルメの祭典

epicuriales.com

6月10日-13日

帆船エルミオーネの寄港 場所 :ボルド

一港

www.hermione.com

6月14日-18日

20周年を迎えるボルドーワイン祭りを記念

して豪華クルーザー来航

www.bordeaux-wine-festival.com

6月15日

ボルドー海事博物館開館。こけら落とし展«

モネ 大地と海の間» 開催。

bit.ly/2gn876b

6月16日-17日

«ボルドー特産ワインの週末»

www.ugcb.net

6月20日-9月16日

バッス・スー・マリンにてストリートアート展

bit.ly/2bsRalw

6月21日-9月21日

ルラーシュ(Relâche)フェスティバル、3ヶ月

にわたりコンサートが繰り広げられる都市

音楽祭

relache.fr

6月26日

マットムアトランティック (Matmut

Atlantique) にてガンズ・アンド・ローゼスの

コンサート

www.matmut-atlantique.com

6月28日-7月1日

マルマンデにてガロロックフェスティバル ダーモ、オレルサン、インドシナ、マリリンマン

ソン、ネクフ、マックルモア他参加。

www.garorock.com

6月29日

« Eysines goes soul »祭

bit.ly/2CV8rVd

7.8月

7月4,5日、12, 13日 www.lerocherdepalmer.fr

7月7日-8月18日 «メリニャックで過ごす夏» bit.ly/2CWbwV4

7月14日-8月12日 地区で行われる無料のスポーツや生涯学 習活動。

bit.ly/2kUIGNo

7月15日-8月19日 河岸で踊ろう。ガロンヌ川沿いで開かれる ダンスフェスティバル

www.dansonssurlesquais.fr

8月3日から5日 サンスカ(Sun Ska)レゲエ祭。 ヨーロッ パ最大のレゲエ音楽祭 www.reggaesunska.com

10月

10月6日-24日 ボルドー都市圏国際芸術祭 bit.ly/2kXNHow

10月18日-25日 ボルドーインディペンデント映画国際フェ スティバル fifib.com

10月18日-12月16日 メディア・アクア展覧会 バッス・スー・マ リンにて bit.ly/2bsRqlw

11月

11月16日-18日
«ボルドーS.O good »、南西部の美食と芸術の祭典
www.bordeguxsogood.fr



ル・カーニバル・オグモンテ

2018年は、アーティストでグラフィストのギョミットが監修によるデジタル時代のカーニバル、カーニバル・オグモンテ(Carnaval Augmenté)の年です。拡張現実の創造やデジタルワークショップ、パレード前の催し物などを通じて、デジタルが可能に新時代への不安と期待を表現します。このお祭りは3月4日に開催されます。

bit.ly/1JXnfiS

9月

9月7日-8日 クライマックスフェスティバル bit.ly/2zg9Cw4

9月8日 メドックマラソン bit.ly/2BP4FNR

9月15日-16日 ヨーロッパ文化遺産の日 bit.ly/200lxhn

9月27日 - 10月6日
Campusations、ダンスショー、音楽などで構成されたフェスティバル 会場ペサック(Pessac)
www.campulsations.com



ボルドー夜のマラソン

3月24日は、フランスで唯一の夜のマラソンが行われます。ユネスコの遺産に登録されている月の港やお城、ワイン畑などを抜け、ゴールのガロンヌ河岸まで、ライトアップされたボルドーの建築や歴史的町並みを見ながら走ることができます。

bit.ly/1tbLstl

数字&順位で見るボルドー

- ・ 2015年:ボルドーはヨーロッパのベスト目的地に選ばれました。
- ・ 2016: ニューヨーク・タイムズ紙の選んだ《世界必訪の旅行先》- 第2位にボルドー
- · 2017年:アタビュラ(Atabula)による、フランスで一番食通の街に。
- ・ コペンハゲジン(Copenhagenize)誌より6番目に自転車が快適な街に選出(2015年は8番目)
- ・ ボルドー空港は、利用者 1 千万未満の空港として最高の空港に選ばれました。

発展を続けるボルドー観光

- ボルドーは、パリ、マルセイユ、リヨン、ニースに次いで5番目のフランス人のお出かけ地(INSEE2016年版による)
- 訪問者の数は観光が盛んになり始めた2003年より毎年 5%の割合で増え続け、街の再活性化に貢献しています。
- 2017年には計4900万人が宿泊しました。
- 河川:2017年には48隻の客船で3万人が寄港しました。
- 空港:2017年に利用客が600万人に達しました。(2年で100万人の増加)
- 宿泊:ボルドー近郊含め1320の施設があり、計3万2千人を収容できます。
- ・ 今後5年間で、さらに2500客室が新設される予定です。
- 観光局利用状況: 2017年には、ボルドー各地の案内所を902,500人が利用。

ボルドー・メトロポールBORDEAUX MÉTROPOLE:

- ・ フランスで5番目の大都市圏
- ボルドー・首都(28コミューン)の人口は790,000人であり(うちボルドーは250 000人以上)、
- 2020年までに100万人の人口が予測されています。
- ユネスコ世界遺産登録の面積は、市街地として世界最大の広さ(1810ヘクタール)
- 多くの星付きレストランと、3人の世界的に有名なスター・シェフ、ピエール・ガニェール、ゴルドン・ラムゼイ、フィリップ・エチュベストを擁する美食の中心都市(ジロンド県には合計14軒の星付きレストラン)。
- 競争力のある7つの分野:航空機産業、光学&レーザー、 木材、持続性のある構造建築、情報通信技術、医療・神 経科学

LE VINワイン

- ・ 111000ヘクタールの土地に60の作物。
- ・ 平均生産量:550万ヘクトリットル
- ・ 2016年のシャトー数6300
- ワインのネゴシアン数:300
- ・ 毎秒、世界中で22本のボルドーワインが購入されている。

トップ・フランス・シティーズTOP FRENCH CITIES

TOP ボルドーは、フランスの国際的な都市ネッ FRENCH トワーク « Top French Cities »のメン CITIES バー。このネットワークは、ボルドー観光 局長がディレクターを務め、マルセイユ、リール、モンペリエ などの20余りのデスティネーション都市で構成されています。パリを除くほとんどの大都市とメトロポールが連携して、フランス観光開発機構の「都市のクラスター・ツーリズム」 のために1993年以来恊働し、これらの都市を特徴づける 文化・近代性・エレガンス・歴史・文化財・ガストロノミーと「フランス式」のライフスタイルの普及・発信を目的としています。

ボルドーの新しいマーク



類を見ないほど豊かな文化財に恵まれ、大 西洋を初めとして世界中に開かれた土壌 にはぐくまれたボルドー。その優れた伝統 技術・ライフスタイル、そして創造性や起業

家精神を合わせ持った独自性によって、ボルドーは活気に溢れ、魅力的なメトロポールとして輝きを放っています。つまりそれが、Magnetic Bordeaux(惹き付けるボルドー)です。施設、地方自治体、企業が加盟する新しいブランド Magnetic Bordeaux がこのような背景のもとに誕生しました。今後このマークはキャンペーンやプロモーション・イベント、広報を通して、この地の魅力のシンボルとして使用されます。

プレスコンタクト

広報・プレス担当

Alaïs PERRET

Tel. +33 (0)5 56 00 66 15

Eメール: a.perret@bordeaux-tourisme.com

Sophie GAILLARD-MAIRAL Tel. +33 (0)5 56 00 66 25

Eメール: s.gaillard@bordeaux-tourisme.com

ボルドー観光局 Office de Tourisme et des Congrès de Bordeaux Métropole

12 cours du XXX Juillet 33080 Bordeaux

Lat: 44.84 366 | Long: - 0.57 446

Tel. +33 (0)5 56 00 66 00

www.bordeaux-tourism.jp

写真クレジット

このプレスリリースに掲載された写真は Maria Alberola, Anaka-La cité du vin-XTU Architects. Mathieu Anglada, Gilles Arroyo, cabinets Arsène-Henry Triaud&Brochet Lajus Pueyo, Vincent Bengold, Bordeaux Métropole, Eric Bouloumié, Christophe Bouthé enterview.fr, Deepix, Jean-Michel Destang, F. Deval, Sophie Duboscq, Nicolas Dumas, Axelferis / XTU architects / La Cité du Vin, G. Gradiski, Geoffroy Groult, Heurisko, Sébastien Husté, Philippe Labeguerie, Steve Le Clech, Lucky Studio, Ludovic Maisant, Rémy Martineau, Rod Maurice, Clément Pamelard, François Poincet, Thomas Sanson, Sara Soulignac, Pierre Wetzel, Jean-Bernard Nadeau, Guillaume Bonnaud, Nicolas Duffaure, Mairie de Bassens, Loïc Graniczny, Burdin CIVB, Céline Faure, Opéra National de Bordeaux, Chloé Kast, Pierre Planchenault, J. Gavard, King Kong, Canal Architecture, Philippe Caumes, Charles Wallon ANMPA, Emmy Martens.

の撮影によるものです。この中には、当観光局の承諾を受けて、ボルドーのプロモーションにお使いいただけるものもあります。どうぞ、使用目的を明記の上、下記E-mailへお問い合わせください。

communication@bordeaux-tourisme.com

https://phototheque.bordeaux-tourisme.com

ウェブサイト:

http://presse.bordeaux-tourisme.com/jp/

サイト・デザイン: **Nums** ウェブサイト: www.nums.fr Eメール: contact@nums.fr